令和６年度　第１回越前おおの産業ブランド力向上会議　会議録

日時：令和６年５月１５日（水）午前９時～
場所：結とぴあ３０２号室

１　開会

２　委員長あいさつ

３　委員紹介

４　副委員長の選出

５　議事

（１）令和５年度事業の実績及び成果指標の達成状況

事務局：資料に基づき説明

委　員：ＮＨＫの日本最強の城スペシャルで越前大野城が取り上げられたが、大野城への観光入込客数は変わったか。

事務局：取り上げ前後の分析をしていないため、把握していない。

委　員：時間があれば分析いただいて、インパクトのある結果であれば、次回の会議で報告してほしい。

委　員：資料６ページの③～⑤の人材関係の補助金について、どういった資格が多かったか（③）、どのような業種・規模の企業だったか（④、⑤）。

事務局：③半分以上が建設関係で、大型特殊、クレーン車などの特殊な車の免許。また新しく入った方の調理師免許がほとんど。④建設業の副業・兼業人材で１件。⑤主に食品や物づくりなどの製造業が４件、そのほか美容室や建設業に活用いただいた。

委　員：額は小さくてもこういった補助があることで、事業者も背中を押されると思う。利用が少ない印象なので、もっとＰＲしていくといい。

委　員：③人材育成補助は、資格を取得しないともらえないのか。落ちた場合は。

事務局：資格取得を条件にしているわけではない。

委　員：ブランド活用事業補助は、いろんなことに支援しているが、通常のＫＰＩとは別に、これだけの事業をして、どれくらいの経済効果・来場者数があったのかなど、数値化したものを観光連盟などとタイアップしてデータを取り、評価をしていく必要があるのでは。

委　員：新聞などでは取り上げられているが、実際の効果の数字は確かにわからない。各業界の協力も必要。観光関係で、委員の把握している数字で伸び率など開示することは可能か。

委　員：ビューローが４月から、平成大野屋と観光協会の事業を承継した。前年度と比較すると、４月の結楽座の入込数はリニューアルオープンしたこともあり、増えている。客単価も上がっているが、GW中のお客さんはさほど増えていない。大野城への入込数も４月は増えていないが、GW中は２年前と比較すると１．２倍。

委　員：ＧＷは昨年と比べ、冠山峠が開通したことで、ライダーが増え売り上げも伸びた。

委　員：向上戦略のＫＰＩで、宿泊者数と観光入込客数について、Ｒ３からＲ４は入込客数は増えているが、宿泊者数は減っている。Ｒ４からＲ５は、入込客数はあまり増えていないのに宿泊者数は増えている。どう分析しているか。

事務局：分析まではしていないため、感覚の話になるがＲ３からＲ４の宿泊者数の減は、恐竜博物館の休館や市内宿泊施設がいくつかお休みしていたためと考えている。入込客数の増加は、道の駅や中止となっていたイベントが復活したことが大きいと考えている。Ｒ４からＲ５の宿泊者数の増加は、恐竜博物館のリニューアルオープン、フレアール和泉などの休んでいた宿泊施設が稼働したためと考えている。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：ＫＰＩは、県や全国の数値を比較対象として記載して、県などとの差分を分析して教えてほしい。

委　員：宿泊者数がどれくらい市内で消費しているかも併せて表記してほしい。また、道の駅の売り上げについて、市外のものを置いているのは理解しているが、売り上げ全体の中で、産直の会の売り上げがどれくらい占めているのかも教えてほしい。

委　員：⑤人材確保事業補助により、どれくらいの従業員が確保できたのか。

事務局：ＨＰを改修して２名の雇用につながったと実績報告いただいているケースもあるが、補助の性質上、当課では把握していない。事業者にタイミングを見て調査することを検討したい。

委　員：ＫＰＩの国への補助金申請数は、創業や売上増加のための持続化補助金の利用が増えており、１回受けた事業者がまた利用している印象。飲食サービスを中心に創業に向け動いている印象だが、まちなかの方になかなか増えていない。店舗形成事業補助は、昔は家賃補助があったがなくなってしまった。実績が上がるよう、補助を使いやすいように検討してほしい。観光入込客数は、どの方面からどれくらい来ているのか把握しているか。

事務局：一部把握できているが、全てを把握できているわけではないため、観光連盟のＦＴＡＳも含め、別の方法での集計を検討していきたい。

委　員：パークホテルの恐竜ルームの稼働率、料金設定は。

事務局：手元にデータがないため、確認して回答させていただく。

委　員：実績について、分析できることはやっていく必要があると感じている。宿泊者数は他市町より少ないが、中縦開通に向け、長い時間滞在できるよう受入体制を整えていきたい。ホテルの建設や六呂師高原でのキャンプ場関連の整備も予定しており、恐竜博物館など、広域的な周遊観光も見据えて取り組んでいきたい。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：指標を計って、分析することが最も重要。それを踏まえて施策の方針の検討ができると思うので、大変だとは思うが数字を拾って、定量的な分析をしてもらいたい。

委　員：資料を見ても、体系的に進められる形になってきたと感じている。これからの成果となると、委員がおっしゃるように分析を行い、数字の背景を押さえて、施策に活かしてほしい。

委　員：個人的な意見だが、いろんな施策があることはいいことだが、絞って強力に打ち出していく仕掛けがあってもいいのではと感じている。

（２）令和６年度事業について

事務局：資料に基づき説明

委　員：ビジコンの賞金を３０万円とした基準は。

事務局：確認して回答させていただく。

委　員：１年間取り組むのに３０万円では寂しい。１００万円ぐらいあってもいいのではないか。応募が多ければ、次回検討してほしい。

委　員：７年度以降のビジネス実現補助金は、これからの検討になると思うが、大きな案件が出てきた場合に１００万円程度の補助では事業ができない。それぐらいの補助では、お土産を作ろうぐらいの事業で終わってしまう。大きな案件もビジコンに出せるよう、金融機関や県、観光連盟と協力し、最低２，０００万円程度の事業規模をサポートできる体制を組んでほしい。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：魅力発信事業は、効果検証をどのようにやっていくのかが課題。特に紙媒体は効果検証が難しい。提案だが、関東や中京などの特定のエリアの方々が大野にどういう認識を持っているかを定量的に調査してほしい。よく使われるのが他自治体でもやっているブランドリフト調査で、インターネットの広告として、アンケートを出す方法や、調査会社にお願いしてアンケートを取ってもいい。外の人が大野に対してどのような認識を持っているのか、行きたいと思っているのかを専門家を交えて、定期的に行ってはどうか。インバウンドを狙って取りに行ってほしい。大野の文化や食、特産品を海外の方にどう届けるか、受入のための環境整備、コンテンツ作りはインバウンドもターゲットに入れながら、今後商品開発の事業も検討いただきたい。そのためには、ビューローや県との連携、専門家も交えて、長期的（３～５年）な視点で進めていただたい。

委　員：今年度、大野市の観光推進体制が大きく変わる年になる。県の場合は予算が県、動かすのは観光連盟と縦割りになりやすいところがある。事業を検討する段階から観光連盟と相談し、きちんと設計した段階で、予算化しないと上手くいかないと実感している。そのため、大野市とビューローの役割分担、協業体制が重要。それぞれの得意分野があると思うので、お互いの強みを活かしながら、市にはビューローのサポートに注力してほしい。

委　員：ＧＷに飛び入りで中国人が１２人来店した。携帯の翻訳で乗り切ったが、メニュー表に写真があるといいと感じた。値段設定は、インバウンドを意識して値段を上げると地元が入らなくなるので、両方に対応できるような値段設定をしていきたい。

委　員：魅力発信は、事務局から説明もあったがブランド部会での検討結果を次回の会議で報告いただきたい。

委　員：取組む事業の数も重要だと思うが、取組んだ後のデータ分析を改めてお願いしたい。施策を広く展開しているが方向性やどう最後のキャッシュポイントに落としていくのかの最後のところまでが行政だけでは厳しいのではないかと思う。シンクタンクのような外部に相談できる存在が行政の中にあってもいいのではないか。それも市民ではなく県外や大企業などの違う目線を入れる必要があると思う。

委　員：逸品創出事業をするにあたって、前回の道の駅荒島の郷の商品開発に参加された事業者が荒島の郷でどれくらい売り上げが出たかアンケートしてもらいたい。

委　員：データ分析し、経済的なプラスを示すことは事業者のモチベーションにもつながるので、数値の分析については、前向きに検討いただきたい。

6　その他

委　員：観光ビューローの取り組み説明

委　員：観光の様々な施策に取組むと思うが、食の他に歴史や文化があって、大野の歴史は商売のネタになると思う。また中縦ができるため、観光と産業立地の両面から地域振興を考えることが重要。私の研究結果では、東海と福井のつながりは弱いので、そこが開かれ入口が大野となるのは活かすべき。それに向けてはプロモーション活動が重要。

7　閉会